



『あの夏、秘密のコンフィチュール』

編集長 川俣のレビュー

面白さ	★★★☆☆
エロさ	★★★★★
ストーリー性	★★★★★
何度も	★★★★★

■感想

『あの夏、秘密のコンフィチュール』は夏休みの田舎を舞台に、若者とJ○の姪っ子、その同級生のお嬢様の三角関係をめぐるお話です。

夢と居場所を失った慧は、物語の中で常に受動的な立場に置かれ、凛々花と翠羽の間で揺れながらも、自ら選択できず流されていきます。その姿には、自己喪失の影がどこかに漂っているようでした。

内容は仄暗い、というより読み進めると仄暗くなって行きます。時系列がシャッフルされていてのちのち、この時にこんなことがあったと明かされて行くのは驚きの連続でした。がつたりエロを消費して食傷になっているときや、めっちゃ丁寧な導入が欲しいという方向を欲しているときによさそうに思いました。

文学漫画としても十二分に完成された、読後の余韻をもたらす最高の1冊。エロに興味がなくても絶対に読むべきマスターピース的神作。

[『あの夏、秘密のコンフィチュール』を今すぐ立ち読み](#)